

赤松小三郎研究会講演会の報告

上原 昇（2組）

秋晴れで木枯らし1号が吹きすさぶ 11月3日(文化の日)午後、日比谷公園内の図書文化館にて開催された第12回関東同窓会赤松小三郎研究会主催の講演会に出席しました。

今回の講師は河合敦さんで、『赤松小三郎に影響を与えた人々』という演題での話でした。河合さんは1965年、東京生まれ、青山学院大学文学部卒、早稲田大学大学院教育学研究科博士課程を経て、現在は多摩大学客員教授を務める傍ら、NHK 総合 TV『歴史探偵』などに出演している売れっ子の歴史研究家です。



当会事務局によると、当日参加者は128名、うち上田高校同窓生が45名、一般が83名とのことです。上田から駆けつけてくれた同窓生の顔も見られました。河合さんの知名度もありますが、一般の人の赤松研究会に対する関心が確実に高まっているのが分かります。

65期の出席は原田義則君（3組）、丸山暢久君（4組）と筆者の3人でした。

河合さんは講演に先立って、上田市を訪れ、城址公園内の赤松小三郎記念館を見学、土屋陽一市長（73期）を表敬訪問したとのこと。

当日配布されたパワーポイント資料は何と119ページという事前勉強ぶりで、「最近の小三郎ノイローゼ気味です」と笑いながら語っていました。

冒頭、河合さんから、当研究会の講演会に初めて参加した人の挙手を求められると、ほぼ半数の人の手が挙がりました。

講演やTV出演慣れしている河合さん、さすがに喋りは流暢で内容もとても分かり易いものでした。（講演は年間80回をこなしているとのこと）

河合さんは「赤松のことは研究会の皆さんが調べつくしているので、今日は最新の幕末史研究を踏まえて、赤松に影響を与えた人びとについて話したい」と言いつつも、赤松の生涯と凄さについても、きちんと触れてくれました。

時間が足りなくなっ、用意した5人（1.上田藩主・松平忠固、2.小三郎の師・内田弥太郎、3.勝海舟、4.英国公使館付陸軍騎兵護衛隊長アプリン、5.会津藩士・山本覚馬）のすべては語りつくせませんでした。

私は個人的に関心のあった次の二点について、耳を傾けました。

一つは、何故、小三郎は薩摩藩士に暗殺されたのか？

（島津久光や西郷隆盛など薩摩藩上層部の指示によるものか、桐野利秋ら薩摩藩士個人の

判断か、薩摩藩にとってのスパイ説は?)

二つは、小三郎が幕末から明治にかけて生きていたら、どんな足跡を残したか?

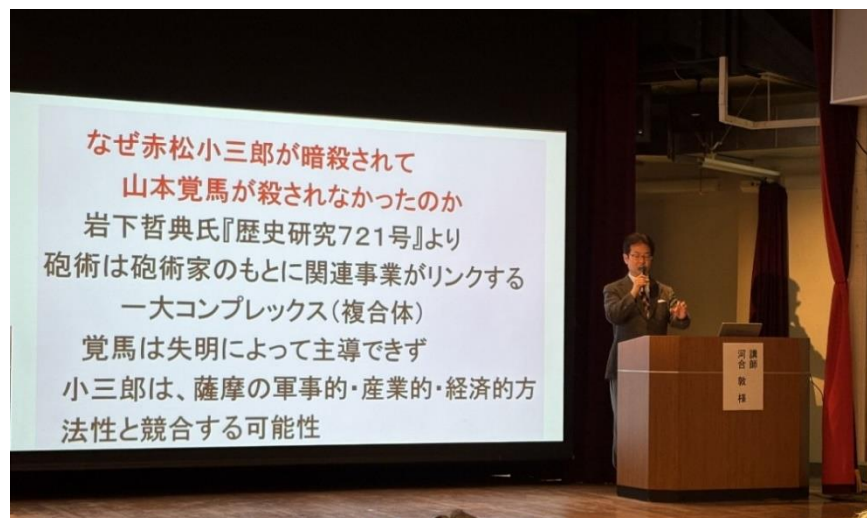
いずれも明解な答えが出るものではありませんが、河合さんの話の中からヒントを得たのも収穫でした。

講演後は、出席者から多くの質問が寄せられ、それに対する河合さんの答えやコメントを聞くことができました。

中には、TV「歴史探偵」の裏話を聞かせて欲しいというものもあり、会場から笑いが広がりました。

当日の詳細レポートは、後日、「赤松小三郎研究会HP」に掲載されると思いますので、関心のある方はそちらを検索ください。

当研究会も創立 12 年目を迎えるとのこと。同窓生以外にもウイングを広げて、赤松小三郎およびその時代について、これからも研究を続けて欲しいと思います。



写真は赤松小三郎研究会事務局提供

原田義則(3組)追記

NHK『歴史探偵』を良く見ている歴史好きの家内共々参加しました。河合氏のプレゼンテーション資料のスタイルは私が授業で常日頃提示している「してはいけない悪い例」そのものでしたが、語られた内容は理路整然として分かり易く、「成程!」と納得の行くものでした。

幕末には身分の上下を問わず誰でも建白書を提出でき、時として採択され、提案者は指導者側体制に組み込まれたことも多々あったとか、和算(数学)が流行し、難問を解いた人物は男女・老若男女を問わず尊敬されていたとかの江戸時代のビックリする事実は、明治政府が進めた「江戸時代は全てに遅れていて否定すべき制度・風習に満ち溢れた社会」と言う自らのスタンスの正当性を主張する教育に洗脳されて来た人間にとっては目を覚まさせる内容でした。(流石に最近ではNHK大河ドラマ「べらぼう」でも描かれているように結構進んだ社会であったことが知られるようになって来てはいますが)

(2025年11月4日記)

以上